11

占領期の医療・看護に関する出版物の検閲（二）

――九州で発行された保健婦の雑誌――

大石杉乃・喜多加奈子
平尾真智子・芳賀佐和子
東京慈恵会医科大学医学部看護学科

【研究の背景と目的】

ＧＨＱは占領期に日本国内で発行される出版物すべてを検閲の対象にした。検閲は参謀第二部（Ｇ２）のCivil Censorship Detachment（ＣＣＤ）が行い、その期間は一九四五年から一九四九年末までであった。検閲のために日本側がＧＨＱに提出した出版物とＣＣＤが作成した検閲文書は、Ｇ２の歴史課に勤務したGordon W. Prangeによりアメリカのメリーランド大学に譲渡され、プランゲ文庫として保管されている。

我々はプランゲ文庫に所蔵された医学、看護関係の出版物の内容を収集し、分析している。今回、図書館および古書データ・ベースに掲載されていない、九州で発行された保健婦に関する雑誌『まごころ』と『保健婦』を発見した。

【結果】

一、『まごころ』について

編集人は保健婦協會北九州支部で、発行日は一九四六年八月二一日、大きさは横一八三ミリ・縦二五七ミリ、総ページ数は二四ページであった。八月号には創刊号と記載されていた。「編輯後記」には「始め月刊の心算でしたが（略）、春夏秋冬の四季に分けて発行することにいたしました」と記されていたが、プランゲ文庫に保管されていたのは、八月号の手書き原稿八九枚と八月号一冊のみであり、両者の内容は一致していた。表紙には「特輯　津屋崎講習會報告」と記されていた。朝日新聞西部本社主催の西日本管内幹部保健婦講習会と同大会が、福岡県宗像郡津屋崎国民学校で一九四六年四月三〇日から五月四日まで開催され、記事の大半

がこの内容で占められていた。検閲文書の添付はなく、無修正で検閲を通過したと考えられた。

二、『保健婦』について

編集・発行人は熊本縣保健婦協會文化部代表者福井京子で、発行日は一九四七年六月一日、大きさは横一四九ミリ・縦二一六ミリ、総ページ数は二八ページ（広告一ページ、グラフ二ページを含む）であった。一・二號の「編輯後記」には「都合で合併號のやむなきにいたりました」と記されており、本文中に「私達の機関誌であると云ふ事です」という記載があり、記事の大半が保健婦活動を積極的に行っている体験記で占められていた。プランゲ文庫には一冊のみが所蔵され、『まごころ』同様、検閲文書の添付はなく、無修正で検閲を通過したと考えられた。

【考察】

戦後最初に発刊された看護職に関わる雑誌は一九四六年七月に大阪保健婦協会編『保健婦事業』、次いで同年一〇月に学術書院（現在の医学書院）発行の看護の全国誌である『看護学雑誌』であった。紙の配給制限があり出版が困難であった一九四六年八月に『まごころ』が発行された事実は、GHQとの関係を示唆するものであった。また、占領期間中に九州地区に二種類の保健婦に関する雑誌が出版されていた理由としては、①朝日新聞社が保健婦活動を支援しており九州地区において保健婦が活発に活動していたこと、②朝日新聞西部本社厚生事業団所属の保健婦として九州で活動していた真島智茂が、一九四六年二月からGHQ公衆衛生福祉局看護課課長 Grace E. Altと連絡をとっていたこと、③九州地区の保健婦リーダーたちがGHQ看護課による看護改革に賛同していたことが影響していたと考えられる。